

# 建造物の部

## とうじいん 等持院

京都市北区

### 方丈修理

#### 概要

等持院は、万年山と号する臨済宗天竜寺派の寺院。暦応年中(1338~42)、足利尊氏が夢窓疎石を閉山として中興し、その後足利氏の菩提寺として深い帰依を受ける。南面して建つ方丈は本堂にあたる建物で、文政元年の再建時に妙心寺塔頭海福院の客殿を移築したものと伝える。耐用年数の経過及び、建物の南東への傾斜、構造材の折損、軒先の垂下、壁や床板等の破損が甚だしくなり、解体修理を行うこととした。



修理中の方丈

## きょうほういん 教法院

京都市上京区

### 山門修理

#### 概要

教法院は、具足山と号する日蓮宗の寺院で、本山立本寺の塔頭の一つである。永正2年(1505)、本住院日虞(にちぐ)により創建され、十界大曼荼羅を本尊とする。創建の地は四条櫛笥とされているが定かではない。現本堂には、「伏見宮貞致親王第二之姫宮 常子公之大母」や、石田三成に仕えた戦国武将「島左近」らが祀られている。今回修理を行った山門は、一門一戸薬医門で、教法院が、宝永5年に現在地へ移転してからまもなく建築されたものとみられている。



山門

ひらおかはちまんぐう  
**平岡八幡宮**

京都市右京区

拝殿修理

概 要

平岡八幡宮は、高雄山神護寺の守護神として、平安初期の大同4年(809)に弘法大師により創建されたと伝える山城国最古の八幡宮である。平安末期、社殿の荒廃は著しく、一時は廃絶した時もあったが、文覚上人により建久元年(1190)に再興され、貞応元年(1222)には文覚の弟子浄覚が現在地に移したとされている。現在の本殿は棟札により文政9年(1826)に建立されたことがわかる。拝殿は、桁行3間、梁間4間の入母屋造で、亀腹基壇上に立つが、床組みの経年劣化による建物の傾きが生じており修理を行った。



拝 殿

かや お じん じゃ  
**萱尾神社**

京都市伏見区

末社四社修理

概 要

日野村の産土神として地元の崇敬を集めている萱尾神社は、法界寺の北東に位置し、その創建については異説があつて定かではないが江戸時代までは法界寺の鎮守社であった。現本殿は慶安5年(1652)、法界寺坊中、在所年寄、近在の氏子により再建されたもので、末社四社も本殿と同じころに造営されたものと思われるが、経年劣化により傷みが多くみられるため2カ年で修理を行うこととし、本年度2社の修理をおこなった。



末 社

### 土塀修理

#### 概 要

江戸時代、徳川将軍家の菩提所でもあった知恩院では、徳川将軍の位牌を祀る大方丈・小方丈と一般が参詣できる本堂（御影堂）とを区切るため築地塀をめぐらしていたが、今回修理を行った土塀は、武家方の参拝、宮門跡の御成、大遠忌の徽号勅使の登嶺に使われる唐門（勅使門）に付随する。この唐門は寛永18年（1641）の建立であり、今回修理を行った土塀も同時期のものと思われる。



勅使門と土塀

## 美術工芸品の部

### 屏風修理

#### 概 要

禅林寺は、浄土宗西山禅林寺派総本山の寺院で、通称永観堂の名で知られている。阿弥陀堂に安置されている平安時代末期の重要文化財「阿弥陀如来立像」は「みかえり阿弥陀」と親しみを込めて呼ばれ、紅葉の頃には多くの観光客が訪れる。今回修理を行った六曲一双、紙本墨画「人物・花鳥図」屏風は、寺記である『洛東禅林寺略記』の中で同寺の所蔵品を列記した「古画志」に本作品が記載されているもので、落款等は見られないものの、同寺では海北友松（1533～1615）筆と伝えられる屏風である。



左 隻

ろくどうちんのうじ  
**六道珍皇寺**

京都市山科区

仏像修理

概 要

六道珍皇寺は、臨済宗建仁寺派に属し、大椿山と号する。奈良後期の天平勝寶年間、慶俊僧都により開基。元は天台宗であったが、弘法大師中興の後、真言宗となる。そして永正9年（1512）の室町時代に臨済宗建仁寺派となり現在に至る。当寺はいわゆる「六道の辻」に位置し、「六道さん」の通称で広く市民に親しまれている。今回修理を行った毘沙門天立像は、10世紀ごろの彫刻で、ヒノキ材、寄木造り。頭頂に髻を結び、顔をやや右方に向け、両目は見開き、口は閉じている。右脚は邪鬼の臀部を、また左足は頭を踏みつけて立つ姿は迫力がある。



毘沙門天立像